

# 「ふじ」におけるJM台木の生育および生産性

福島県農業総合センター 果樹研究所栽培科

## 1 部門名

果樹—その他—収穫

## 2 担当者

斎藤祐一、額田光彦、阿部和博、湯田美菜子

## 3 要旨

本県において、夏場の高温乾燥がリンゴの樹勢に及ぼす影響は大きく、成木期に入り果実が成り込んでくると、樹勢が低下する場合が多い。JM2台木は、成果期に至っても比較的樹勢が強く、樹勢低下等による生産量の低下が認められず、本県における適応性は高い。

(1)開心形で維持しているわい性台木JM7と半わい性台木JM2の生育および生産性を調査した。

(2)これまで、JM7は生産性が高い台木として植栽が進んでいるが、10年生以降では樹勢が落ち着いてきており、生産効率の低下が認められた。一方、樹勢が強いJM2の13年生以降の生産効率は、樹冠の拡大に伴い増加する傾向が認められた(図1)。なお、JM7では、樹勢が低下、衰弱している樹が認められた(表1、図3)。

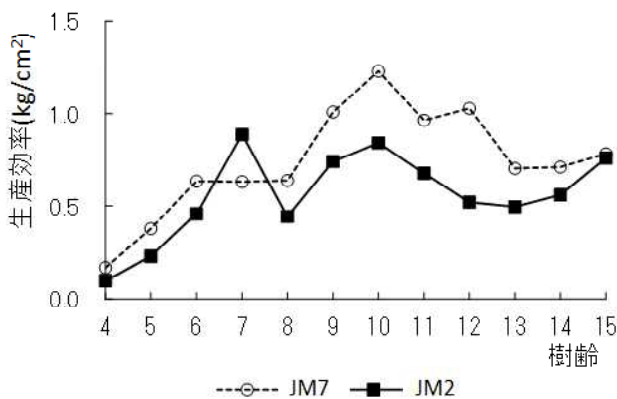


図1 ふじ/JM台木の生産効率

(生産効率:1樹当たり収量/幹断面積)

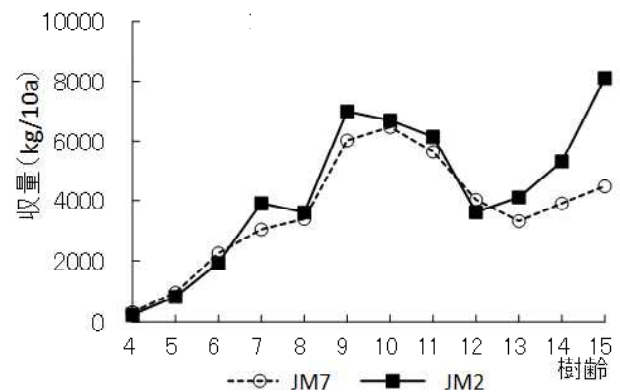


図2 ふじ/JM台木の収量

表1 ふじ/JM台木(15年生)の台木部の状態及び生育

台木	調査樹数	接木部の状態	台木部の障害	樹勢衰弱
JM7	31	台勝ち	7	5
JM2	8	中間	0	0



図3 樹勢衰弱樹のJM7の台木部の状態

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成20年度～26年度 (2) 研究課題名 モモ・リンゴの低樹高化による省力・高生産栽培技術の確立(リンゴの低樹高化による省力・高生産栽培技術の確立) (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料